

講義名	心理学概論		
担当教員	福田 哲也		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要

心理学は、人の心の働きや心に関わる現象を科学的に検討する学問である。そして心理学の領域は非常に多岐にわたる。この授業では、心理学の様々な領域の中でも感情心理学、パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学について概観する。それらを通して、心理学に関する基礎知識や考え方の、人の心の特徴を理解する事を目的とする。

到達目標

感情・動機づけと行動との関わりを説明できる。
 発達に関する考え方や測定方法を説明できる。
 人の発達による心の変化を説明できる。
 人間士が関わることで生じる現象を説明できる。
 心が健康であるために必要なものを説明できる。

提出課題

各授業回では、出席確認を兼ねて、レスポンの回答を求める。回答内容はコメントシートであり、授業に対するコメントや質問等の記載を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

レスポんに記載された質問、当該授業回に関する要望（再度の説明や関連内容に関する説明の要望）に対しては、次回授業時に受講生全体に対して返答する。

評価の基準

受講態度・毎回のコメントシート（30％）と授業内確認テスト（70％）により総合的に評価する。
 授業内確認テストは中間テストと最終テストの2回実施する。
 成績評価の対象は、授業の欠席回数が総授業回の3分の1以下の受講生のみである。授業全体で出席回数が一定に満たない場合（出席が11回未満の場合）、確認テストの成績に関わらず、「放棄」となる。

履修にあたっての注意・助言他

・必要に応じて教員の説明を自分でノートや資料にメモすることが求められる。
 ・心理学という学問をより理解する上では、基礎心理学の受講を推奨する。
 ・認定心理士の資格取得を希望する場合は、単位取得が必要な科目である。
 ・公的な大会や行事、思ひきなどやむを得ない事情での授業欠席は、欠席届および証明書を提出することで、欠席扱いにならない場合がある（証明がない場合や本人の不注意、欠席事由に正当性が認められない場合は対象外）。

教科書	.使用しない。			

プリント資料及び参考文献

各回で資料を配布する。

・参考文献
 熊野 隆・森 敏昭・遠藤 由美・玉瀬 精治（2018）. 心理学 新版 有斐閣
 サトウ タツヤ・渡邊 芳之（2019）. 心理学・入門：心理学はこんなに面白い 有斐閣

授業計画

1. 心理学とは
2. 感情：感情生起に関する理論
3. 感情：感情の表出・感情制御
4. 動機づけ：生物的動機・内発的動機・社会的動機
5. 動機づけ：動機づけと日々の行動
6. パーソナリティ：パーソナリティの考え方とその測定
7. パーソナリティ：パーソナリティの形成
8. 授業前半の振り返り
9. 発達：認知の発達
10. 発達：人間関係の発達
11. 社会：社会的認知
12. 社会：社会的影響
13. 心の健康：ストレス
14. 心の健康：心理療法
15. 授業後半の振り返り

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実験、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・各授業回で配布された資料を確認し、用語の意味や理論を自らが説明できるようにしておくこと（各回につき60分）
 ・授業内で紹介された心理学に関する概念や現象が、自身の日常生活とどのように関わっているのかを考え、説明できるようにしておくこと（各回につき90分）
 ・参考文献をはじめとした授業に関連する文献を図書館やインターネット上から自ら見つけだし、熟読すること（各回につき90分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

人間社会学科共通ディプロマポリシー
 (1) 社会の仕組みや働き、日常生活と文化、人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造することができる。
 目標 - の達成は、人々の心理を理解することであるため、自目標の達成はこのディプロマポリシーの習得および理解に貢献することができる。
 (2) 統計調査やフィールドワークなどの実証的な調査研究の方法、コミュニケーション能力を身につけ、それを社会共創活動、ビジネス、援助に実践的に活用することができる。
 本授業は、実際に調査研究やフィールドワークを実施するわけではないが、各授業では、実際に行われた研究についてその方法も含め説明を行う。またPBLに挙げられている社会共創活動・ビジネス・援助にはいずれも人が関わっているため、人の心理の理解に関わる自目標の達成は、このディプロマポリシーの達成に貢献できる。

人間社会学科 社会・文化コースディプロマポリシー
 (1) 社会構造や社会制度といった社会の仕組みや働き、地域社会における人びとの生活や文化などについて専門的な知識を有し、さまざまなことからの社会における役割や意義を理解し、考えることができる。
 目標 - の達成は、人々の考え方を理解することにつながる。これにより、このディプロマポリシーに記載されたような、地域社会における人びとの生活や文化などについての専門的な知識を有することに繋がる。
 (2) 社会の問題や人びとの考え方を捉えることができ、社会共創・産学連携、インターンシップなどで現実社会との接点を持ち、「社会人」として活躍できる基礎的な能力を身につけ、より良い社会を実現するための新しい社会、文化を創造することができる。
 目標 - の達成は、人々の考え方を理解することにつながる。人々が持つ心の特徴を理解することは、このディプロマポリシーにある「よりよい社会の実現」および「新しい社会、文化を創造すること」を考える上での重要な視点を提供できる。

人間社会学科 心理コースディプロマポリシー
 (1) 人間の精神機能と心理学の研究方法に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測することができる。
 本授業の目的 - は、このディプロマポリシーに挙げられた「人間の精神機能と心理学に関する基礎的知識」の習得と同等であるため、自目標の達成はこのディプロマポリシーの達成に貢献する。
 (2) コミュニケーション能力と、消費者と援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用することができる。
 本授業の目的 - は、人の基本的な心理メカニズムに関する知識の習得および理解であり、これらは、ビジネス場面や援助場面の心理学の応用のための土台となる。そのため自目標の達成は、このディプロマポリシーに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

授業ではレスポンの回答を用いるため、スマートフォン等にアプリを入れて持参することが必要となる。